

『医療従事者の基本原則』 ～ 『他人の苦痛に対する思いやり』 ～

2025 年 7 月 9 日 新渡戸稲造記念センターから順天堂大学に寄った。筆者は 2007 年から毎月『読書会』開催している。『読書会』の箇所は、新渡戸稲造(1862-1933)著『武士道』と内村鑑三(1861-1930)著『代表的日本人』を毎月、交互に行っている(画像)。

【『良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする』(新渡戸稲造)で、行動への意識の根源と原動力をもち、『はしるべき行程』と『見据える勇気』である。『優雅の感情を養うは、他人の苦痛に対する思いやりを生む。しかして 他人の感情を尊敬することから生ずる謙譲・慇懃の心は礼の根本をなす。』】の学びである。これは、『医療従事者の基本法則・原則』でもあろう。

【目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変にとるべし。最も必要なことは、常に志を忘れないように 心にかけて記憶することである。---- 愛、寛容、他者への情愛、哀れみの心、--- 人間の魂がもつ あらゆる性質の中で、もっとも気高きものとして 認められてきた。】『武士道』

新渡戸稲造は、札幌農学校に学び、卒業後は東大に入学するが、この面接試験で将来の希望について『我太平洋の架け橋とならん』と答えたという逸話を残している。しかし新渡戸稲造は東大の学問レベルに満足せず、アメリカに留学する。帰国後、札幌農学校の教授に就任、教育と研究に勤め、また北海道開発の諸問題の指導にあたるが、体調を崩してカリフォルニアに転地療養をすることになる。療養中に書き上げたのが『Bushido: The soul of Japan』（『武士道』）である。

内村鑑三は、札幌農学校で新渡戸稲造と同級生であり、アメリカに留学し、帰国後、いくつかの学校で教鞭をとるが、いわゆる『不敬事件』が社会問題化し、一方、自身も病を得、教壇から去ることになる。しかし 不遇の間に数多くの著作、論説を発表し、教育や文学、芸術などを幅広い分野に影響を及ぼした。この時期に書かれた『Representative Men of Japan』（『代表的日本人』）は、新渡戸稲造の『武士道』とならぶ、世界のベストセラーになった。



上 内村鑑三先生
下 新渡戸稲造先生



揺らぐ日本を思い、骨太に読み切る

代表的日本人

内村鑑三 著
(岩波文庫)



推薦者：榎野秀夫氏
慶応義塾大学名誉教授 慶応義塾大学文学部
江戸川乱歩人文学部学内理事委員
『21世紀の知的能力委員会』編集

がん細胞から人の生き方を学ぶ。そしてがん患者をはじめとした人間との対話。それが榎野秀夫氏の実践するがん医学の真実だ。全国各地で講演会やメイカルカフェを開き、関心する患者や家族、医療関係者などがやってくる。

榎野氏は、がん細胞を観察・研究してきた癌理医だが、それとともにおそらく国内でも屈指の内村鑑三、新渡戸稲造らの研究者であり、実践家である。何しろ患者との対話で次から次へと結び出される言葉の数々は、それら内村鑑三、新渡戸稲造らの著作にある一文、一文を血肉としてきたものなのだ。

「若いころから読解し、毎日読む30分前には医療と関係のない書物を読みなさいと言われ、実践してきた。もう初年になる」

榎野氏が持参した内村鑑三書の『代表的日本人』を見てみると、行間には榎野氏が書いたボールペンの文字で埋め尽くされている。読書しながら思考を重ねてきた証だ。色が通っているのは、読み込んだ回数を表している（写真参照）。

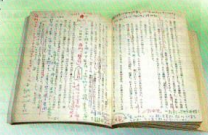
『代表的日本人』は、案外となく西欧化の道を突き進む明治期にあって、西欧の真似をする日本とは何なのか。それを受け入れてい

る自分とは何者なのか。、そう自問自答した内村鑑三が、西郷従道、上杉謙山、二宮尊徳、中江素軒、日蓮上人という人々の偉人の生涯を紹介しながら、日本的な道徳や倫理の美しさを切々と語る。初版は英文で発表され、各版で翻訳された。

「東日本大震災や福島事故を経て、日本という国自体が揺らいでいる。そんなときだからこそ、ぜひ読んでほしい」

内村鑑三だけではない。1933年3月、三陸で地震の大災害があった。被災地である宮古市などの自治体を訪れた新渡戸稲造は、惨状を目の当たりにし、「協力こそが力なり」と語ったとされる。

「まさに今に生きる言葉である。今、新渡戸稲造が生きていれば同じ行動、同じ発言をしただろう」と榎野氏は言い切った。時は違えども、現在の状況は、内村鑑三、新渡戸稲造が生きた明治中期に似ているようだ。そのと



きに、日本を愛し、生き抜いた思想家たちの片りんに触れ、自らの生き方を見つめ直す。そんな骨太な夏であっていいかもしれない。

読書タイムズ 2012年08月10日 2012年08月22日 9

武士道

新渡戸稲造著

矢内原忠雄訳



「武士道はその表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である」——こう説きおこした新渡戸

新渡戸（1862 - 1933）は以下、武士道の淵源・特質、民衆への感化を考察し、武士道がいかにして日本の精神的土壌に開花結実したかを説き明かす。「太平洋の懸橋」たらんと志した人にふさわしく、その論議は常に世界的コンテクストの中で展開される。



青 118-1
岩波文庫